

主張

新型コロナウイルスの世界的感染者が4月3日で100万人を超え、101万7000人

余りに達した。感染は181の国・地域に広がり死者は5万3000人余りに増えた。昨年12月に中国で初の発症者が確認されて以来、およそ4か月で感染者は3月27日に50万人に達してから僅か1週間で倍増した。

新型コロナウイルス肺炎にどう立ち向かうか

足する事態を避けるため、軽症者が病院以外で療養できる体制に移行していくことになる。

4月7日安倍首相は新型コロナウイルス対応の特別措置法を東京をはじめ7都府県に出した。期間は1か月である。こ

「言」を發出した。国内で確認された感染者は4月9日現在6255人、死者は119人である。

こうなると新型コロナウイルスの感染力は予想以上に強く、死亡も老人のみならず若い人や子ど

避けることが大切である。しかしマスクがなかなか入手できない。

三重県でも今月に再開した県内の公立学校をはじめ県内の小中学校も14日ごろより休校に入る。三重は感染者は少ないほうだが、それでもじわじ

の福岡伸一教授によれば、この新型コロナウイルスは数年後にはインフルエンザのように日常的な病気になる予防注射が打てるようになったり、ウイルスの増殖を抑制するよう薬も開発されるだろう。今はよく寝ることが大切である、という。

もう一つの大問題は経済的な冷え込みである。東京五輪パラリンピックも延期となり大きいイベントは延期や中止になった。

今回のコロナショック

で、指定医療機関の設備や人材不足など問題は山積している。医師不足、看護師不足、医療機関に対する予算不足、このチャンスにこれらの問題を解決していかねばならぬ。

の中に愛知県は含まれ

ず、10日に大村知事は愛

知県独自に緊急事態宣言を出し、政府にも改正

特別措置法に基づく宣言の対象に含めるように要

請した。京都府もそれを望んでいる。三重県も

「感染拡大阻止緊急宣

もにも起こりうるものが分かってきた。

特效薬がまだ見つからぬ現在、患者に接触しないことが大切で、不要不

急の外出を避け、マスクをつけ、手洗いをこまめ

に行い、密閉・密集・密接という「三つの密」を

わと増えている。

医療機関にとって、開

院している以上、感染の恐れは大きい。しかしマ

スコミの毎日の報道に乗って、心配し過ぎても

しかたがない。京都大学大学院助教授を経て現在

は青山学院大学教授